

東京都医師会  
第33回「医療とICTシンポジウム」

# 患者の立場で考える データヘルスと望ましい将来像

認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML  
理事長 山口 育子

# ささえあい医療人権センターCOMLとは

- 1990年スタート、2002年NPO法人化、  
2016年7月1日認定NPO法人認証
- 自立・成熟し主体的医療参加ができる賢い患者を目指す  
一人ひとりが「いのちの主人公」  
「からだの責任者」の自覚から
- 対立せず協働 ⇒活動の目的  
より良いコミュニケーション
- 思いを言語化し、提言・提案できる患者・市民の増加が願い

# COMLの活動 (2022年2月末現在)



講演: 4303回  
各種検討会・委員会

相談: 65144件



SP活動: 1701回 (OSCE497回)

病院探検隊: 99回



患者塾: 245回



患者と医療者のコミュニケーション講座: 98回 (出前16回)

◆基礎コース: 医療をささえる市民養成講座 (2009年度~13期)

◆アドバンスコース: 医療関係会議の一般委員養成講座・委員バンク



# 目標にしたい将来像

自分の生涯の健康・医療情報は、一人ひとりが自己管理する。

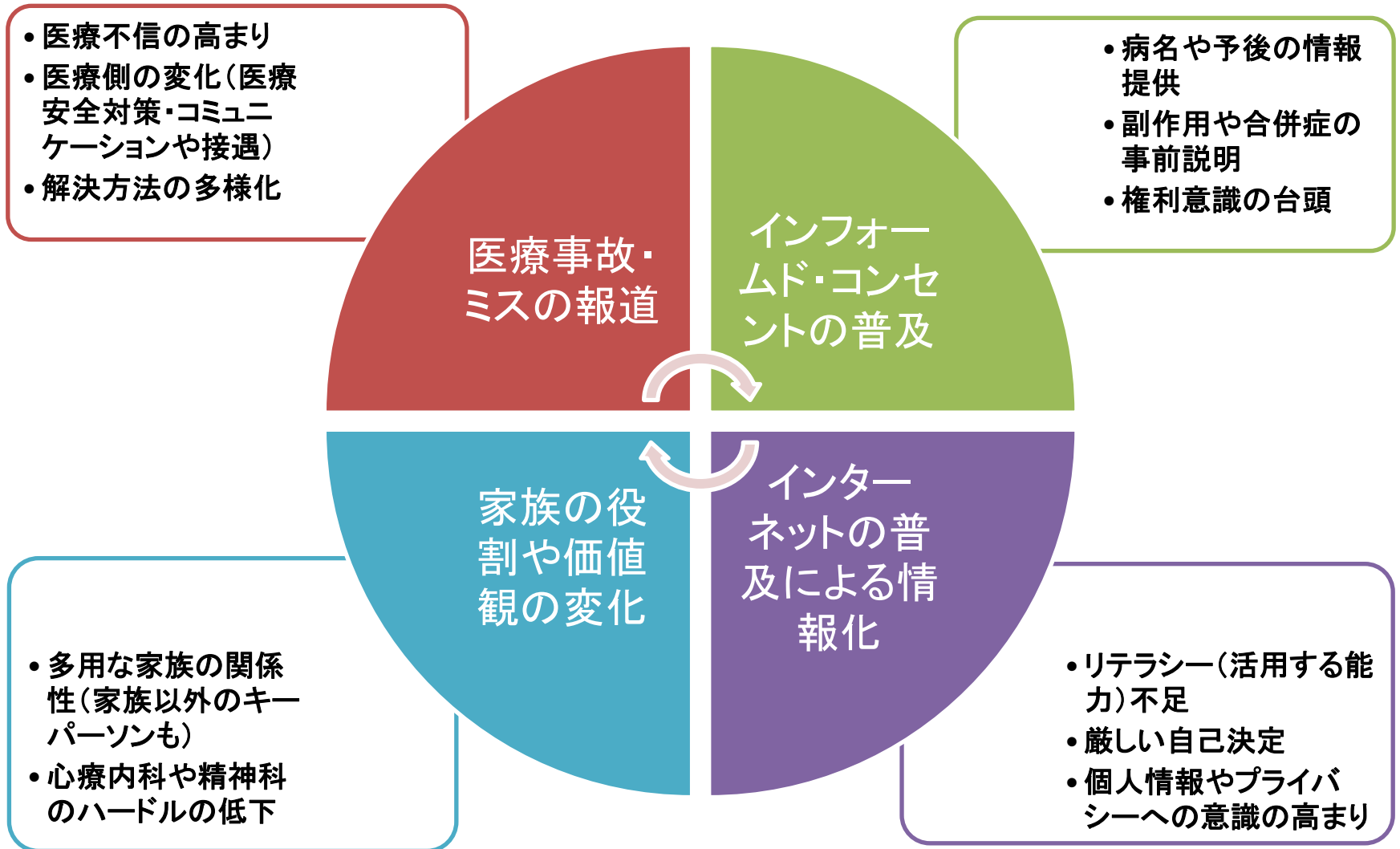
# 情報が閉ざされていた時代に 患者経験をして

病名、病状、検査結果、画像、病理  
結果・・・懇願しても教えてもらえない

他人である医療者が知っている私  
の情報を本人が知ることができない

プライバシーの侵害ではないか

# 30年の相談内容の変化の背景



# 最近の相談者の意識と傾向

姿勢の二極化

徹底追及

⇔遠慮・我慢

医療者の苦情

メディアの報道  
内容に左右されがち

「相談」より「判断」を求める  
相談ナビ

コミュニケーションに悩む  
回帰現象

# 患者の課題①

## 「理解できていない」

- 漠然と「わからない」「何がわからないかわからない」
- 専門用語や治療効果など前提となる基礎知識がない

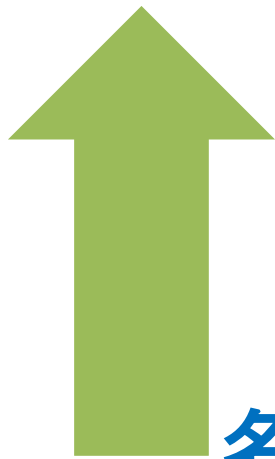
- 理解できない理由の分析はできない
- 結果には不満足

- 「理解できていない」→「そんな説明聞いていない」
- 納得いかない結果は不信感に



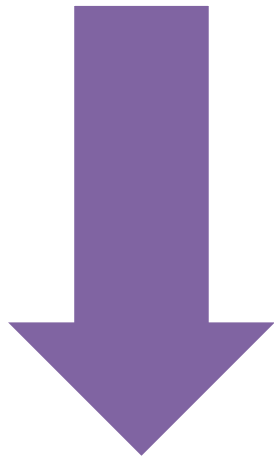
## 患者の課題②

# 患者と医療者の思いのズレ(その2)



診察券に  
書いてあ  
るのに

名前の確認



医療安全  
の一環



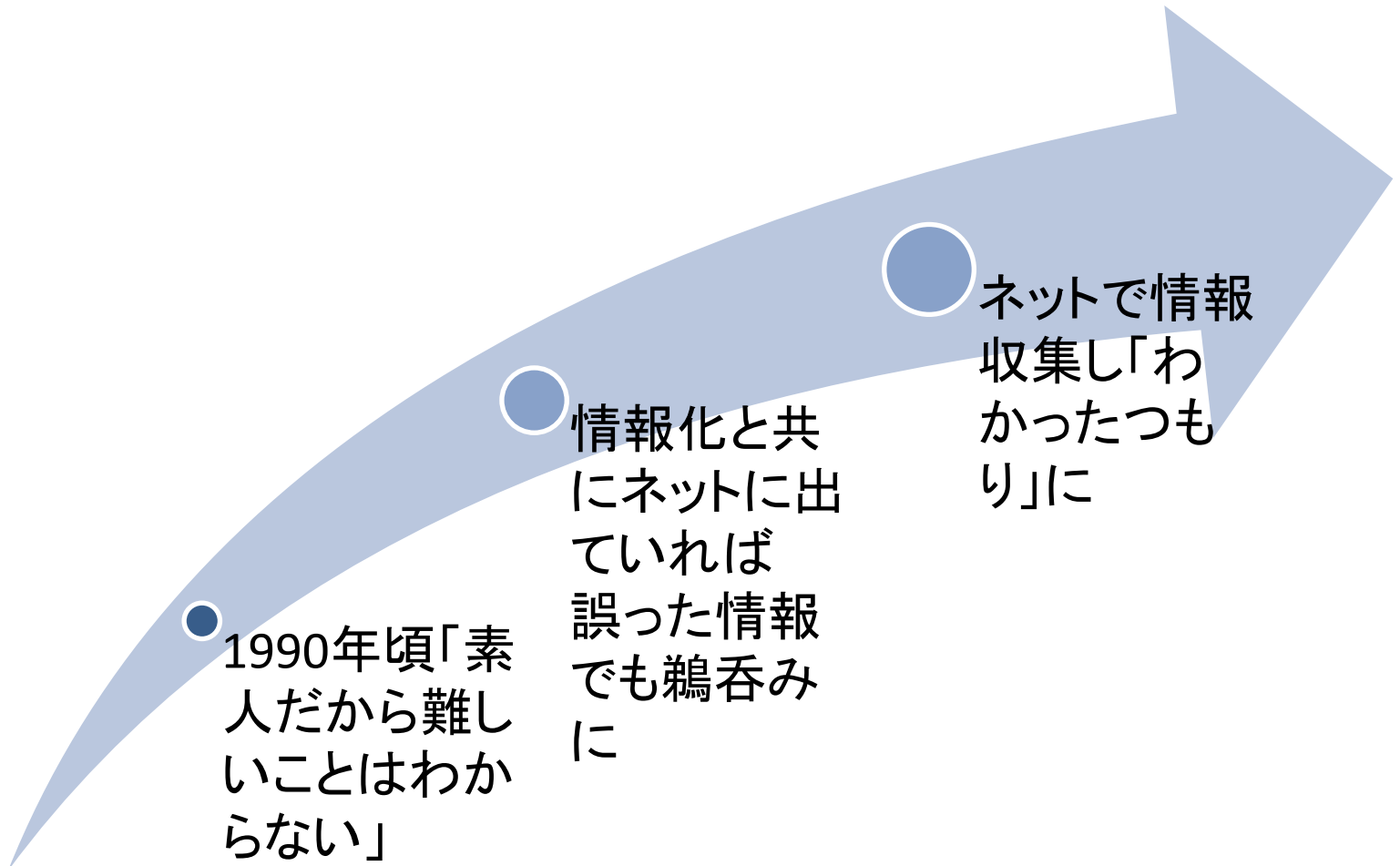
入院中な  
のに

転倒・転落



起こりがち

# 患者の課題③ 情報のリテラシー



1990年頃「素人だから難しいことはわからない」

情報化と共にネットに出ている情報でも鵜呑みに

ネットで情報収集し「わかったつもり」に

# 課題の克服を阻害している要因

医療の制度、しくみ、情報、受診の仕方を学ぶ場がない

コミュニケーションが苦手な人が多い

日常の上級編・応用編が医療現場でのコミュニケーション

自己決定、自己主張を避ける傾向

# インフォームド・コンセントの成熟



# これからの患者・医療者関係



# 子どもへの教育が将来を築く

情報のリテラシーを高める

ヘルスデータは自分の大切な情報だと子どものころから意識づける

意識改革

ヘルスデータを自己管理し医療機関と共有する

自分で考え、自分で決める力をつける